

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人静岡市文化振興財団	
施 設 名	静岡音楽館 A01	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業	
内 定 額 ( 総 額 )	1,077	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,077 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

# 1. 事業概要

## (2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第27回「静岡の名手たち」オーディション および オーディション合格者によるコンサート	2023年5月3、4日 (オーディション)	<p>1. 第27回「静岡の名手たち」オーディション [実施部門]5/3 打楽器部門、声楽部門、5/4 弦楽器部門、アンサンブル部門 [審査員]福田進一(審査員長代理)、大倉由紀枝、小林美恵、佐久間由美子、松倉利之、望月哲也 [対象]静岡県在住、在勤、通学、および静岡県出身の音楽家、音楽愛好家</p> <p>2. 第27回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサート [出演・曲目] 川本奈緒(ソプラノ) 猪本隆: さざんか(薮田義雄 詩) アフリカの子(門倉諒 詩) ぼうさまになったからず(松谷みよ子 詩) 若園篤(ヴァイオリン) ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー: ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 op.35 第1楽章 石井優希(クラリネット)・薩川美和子(ピアノ) マリー・エリザベト・フォン・ザクセン=マイニンゲン: ロマンズ ヘ長調 シャルル=マリー・ヴィドール: 序奏とロンド op.72 川口萌恵子(マリンバ/パーカッション) 吉松隆: バードスケイプ op.20 山口恭範: コナンドラム 横山琴子(ヴァイオリン) カロール・シマノフスキ: 神話 - 3つの詩曲 op.30 より 第1曲〈アレトウーサの泉〉、第3曲〈ドリアードとパン〉 伊藤尚人(バリトン) ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー: 歌劇《スペードの女王》op.68 より 〈私は貴女を愛しています〉 ジュゼッペ・ヴェルディ: 歌劇《仮面舞踏会》より 〈そなたはあの魂を汚す者〉 [入場料]全自由 ¥1,800 (会員 ¥1,620、22歳以下 ¥1,000)</p>	オーディション 参加者 65組、コンサート入場者 360人	
		2023年9月16日 (コンサート)		静岡音楽館 A01・ホール	オーディション参加者 35組(うち1組棄権) コンサート入場者 284人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p data-bbox="113 309 1479 387">ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p data-bbox="113 405 1479 533">「静岡の名手たち」は、静岡音楽館 A01 からすばらしい音楽家が育ち、新たな音楽活動が発展していくことを願いはじまったオーディションである。合格者は「合格者によるコンサート」への出演のほか、今後、静岡音楽館 A01 や（公財）静岡市文化振興財団が主催するコンサートへの出演の機会に恵まれる。</p> <p data-bbox="113 551 1479 723">静岡出身の優れた音楽家は数多く存在するが、地元でプロとして活動する場が非常に少なく、優秀な人材ほど大都市に移ってしまう。地元で活動したい演奏家は潜在的に多く、それを応援する聴衆の醸成も含めそのニーズは高い。また、合格者の支援・育成が充実してきたことにより、本オーディションに対する地域の演奏家の期待は高まっているものとする。</p> <p data-bbox="113 741 1479 869">本年は当初の予定通り 5 月にオーディションを開催、打楽器、声楽、弦楽器、アンサンブル部門を実施。計 6 組 7 人の合格者を得て、9 月に演奏会を実施した。ここ数年間の中では非常にレベルの高いオーディションとなり、特に声楽部門の合格者 2 名は突出した成績で審査員・聴衆を驚かせた。</p>
<p data-bbox="113 1223 1479 1256">助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p data-bbox="113 1274 1479 1402">静岡音楽館 A01 は 1995 年の開館以来、静岡の新たな才能を発掘する「静岡の名手たち」オーディションを毎年実施。今回は第 27 回。本事業は、いまでは静岡の音楽家の登竜門的な存在になっており、社会的にその価値が認められていると考えている。</p> <p data-bbox="113 1420 1479 1500">これまでの合格者は、今回で延べ 210 件 308 人を数え、その多くがプロフェッショナルの演奏家として全国で活躍しており、音楽文化の発展に貢献している。また、今後も新たな才能の発掘が期待されている。</p> <p data-bbox="113 1518 1479 1646">今回のオーディションではさまざまな楽器の演奏者が合格したため、コンサートは編成が多岐にわたり、プログラム自体も聴きごたえのあるものとなった。公演アンケートでは、「静岡の音楽家が素晴らしいことを実感し、これからも応援したい」等の出演者への激励のメッセージが多数寄せられた。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

目標① オーディション参加者数

指標 65 組

実績 35 組 (未達成)

目標② コンサート入場者数

指標 360 人

実績 284 人 (未達成)

オーディションの参加者は 65 組を目標としていたが、今回は 35 組 (うち 1 組棄権) に留まった。その要因として、関係各所への募集要項の配布が十分に出来なかったことが考えられる。その一方で、オーディションの観覧者については、SNS で積極的に観覧者募集等の宣伝を行った結果、昨年を大きく上回る観覧者数 (2 日間で 162 名) を得ることができた。

また、コンサートについては、入場者数の目標は 360 人であったのに対し、284 人が入場。過去の公演アンケートから、観客の大半が出演者の関係者であるケースが多いことがわかっていたため、あらかじめ出演者にはチケット販売にご協力いただくよう定期的に働きかけ、出演者全体で約 200 枚のチケットが販売できた。広報活動としては、静岡県内の公立高校の吹奏楽部や静岡市内の楽器店にチラシを配布したり、出演者一人一人の公演メッセージを SNS に掲載するなどして集客に努めたが目標入場者数には及ばなかった。

次年度以降は、当館の友の会である静岡音楽館倶楽部の会員に向けた、よりわかりやすい広報活動や静岡市内の小・中学校へのチラシ配布等を検討したい。また、次年度以降も令和 5 年度にした広報活動 (出演者メッセージ、チラシ配布、SNS 広報活動) は継続していきたい。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

オーディションの募集は、令和4年12月に開始する計画であったところ、募集要項の制作が令和5年1月に遅れ、その結果、募集期間が1ヵ月ほど短くなってしまったことが、応募者が目標値に達しなかった一因になったものと考えている。

また、コンサートについては、オーディションの終了後、すみやかにチラシの制作に取り組み、計画通りに実施できた。入場者数は目標に達しなかったものの、事業期間としては適切であったと考えている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

オーディション、コンサートを合わせて2,781千円を予算としていたが、決算は合わせて1,297,616円となった。これは、オルガンやチェンバロの応募者、合格者を想定してその調律料を予算に計上し、またコンサートについては最大10組の合格を想定しているが、合格者は6組7人となったことから、その出演料等が不用額となったこと、オルガン、チェンバロの応募者、合格者がなかったため調律の必要がなく、その費用が不用額となったものであり、計上、執行ともに適切であった。

このことにより、本助成金交付要望書に対し、助成対象経費に53.7%の減額が生じ、助成対象活動計画変更承認申請を行った。

#### (4) 創造性

##### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

「静岡の名手たち」オーディションは、審査員を、地域の有識者ではなく、芸術監督および企画会議委員ほか日本の第一線で活躍する音楽家等が務めることとしている。このことにより、地域の音楽家を審査するにあたり公平性を確保している。今回は日程的に野平一郎芸術監督の都合が合わず、福田進一企画会議委員が審査員長代理を務めた。

今回の6組7人の合格者のうち、川本奈緒（ソプラノ）にはロダン賞を、伊藤尚人（バリトン）にはコンチェルト賞を、それぞれ贈賞した。ロダン賞は、受賞者を静岡県立美術館ロダン館でのコンサートの出演者として、静岡音楽館 A01 から推薦、コンチェルト賞は、受賞者を地域のプロフェッショナル・オーケストラ富士山静岡交響楽団が出演するコンサートにソリストとして、静岡音楽館 A01 から推薦するもの。両賞は合格者の中から選ばれ、審査員によってそれぞれの趣旨に相応しいと認められた者に贈られる（合格者における優劣を示すものではない）。本助成対象事業ではないが、川本奈緒のロダン賞コンサートは令和6年度に実施の予定であり、伊藤尚人はコンチェルト賞により令和6年1月18日に開催された「オーケストラを聴こう 小中学生のための名曲コンサート」（[主催] 静岡市、[企画・制作] 静岡音楽館 A01、会場：静岡市民文化会館・大ホール）において富士山静岡交響楽団と共演した。

このことは、静岡音楽館 A01 が、「静岡の名手たち」オーディションを通じて地域の音楽文化振興の拠点として機能している実例のひとつとして認められる。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

本助成対象事業ではないが、静岡音楽館 A01 は、これまでの「静岡の名手たち」オーディション合格者を積極的に支援している。令和 5 年度は、第 27 回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサートのほか、以下の 9 事業についてこれまでの合格者を起用した。

令和 5 年

\* 出演者名右数字は合格回

6/9 アウトリーチ・コンサート（静岡南部特別支援学校）塚本陽子（クラリネット）9、12 ほか

7/4 アウトリーチ・コンサート（駿府学園）森下愛梨（トロンボーン）25 ほか

7/15 アウトリーチ・コンサート（静岡市清水両河内生涯学習交流館）宮田優（メゾソプラノ）24 ほか

8/5 A01 のオープン・デイ 2023 オーケストラ名曲の夕べ（静岡音楽館 A01）

嶋田慶子（ヴァイオリン）1、小川亜希子（ヴァイオリン）22、小杉結（ヴァイオリン）6、沼野朱音さん（ヴァイオリン）14、21、萩原嘉乃（ヴァイオリン）8、増田訓子（ヴァイオリン）6、生駒宗煌（チェロ）14、鈴木穂波（チェロ）24、山西貴久さ（コントラバス）4、諸田大輔（フルート）2、4、縄巻花笛（フルート）17、塚本陽子（クラリネット）9、12、入川奨（打楽器）16 ほか

9/24 静岡市美術館ミュージアム・コンサート（静岡市美術館）

上野由理（ピアノ）22、26、上野史織（ピアノ）26

11/3 静岡県立美術館「静岡の名手たち」ロダン賞コンサート（静岡県立美術館ロダン館）

蒔田未来（ピアノ）26、伊澤拓未（ピアノ）26

11/17 アウトリーチ・コンサート どこでも A01（静岡市立安東小学校）鈴木啓資（ピアノ）21、23

11/24 アウトリーチ・コンサート どこでも A01（静岡市立清水中央小学校）小澤実々子（ピアノ）19

令和 6 年

1/18 オーケストラを聴こう 小中学生のための名曲コンサート（静岡市民文化会館・大ホール）

伊藤尚人（バリトン）27 ほか

このほか、「静岡の名手たち」Facebook ページではこれまでの合格者の活躍を紹介、令和 5 年度は計 534 回（月平均 44.5 回）投稿し、地域の音楽家の支援に努めている。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 事業運営について

今回、オーディションの応募が少なかった原因に対し、令和6年度に実施の第28回については令和5年度に募集を行うため、当初の計画通り12月には募集を開始できるものとし、応募者数65組の目標を達成できるよう努める。また、コンサートについては、当館の友の会である静岡音楽館倶楽部の会員に向けた、よりわかりやすい広報活動や静岡市内の小・中学校へのチラシ配布等を検討したい。また、次年度以降も令和5年度に実施した広報活動（出演者メッセージ、チラシ配布、SNS広報活動）は継続していきたい。

#### 経営戦略について

人材育成事業は劇場・音楽堂における重要な課題であり、静岡音楽館 A01 自らの運営基本理念や重点方針にもそれを掲げ、また、静岡市の指定管理者業務においても求められている。人材育成事業の多くは財務的には収支バランスが良好ではないが、これを継続的に発展させるためにも、取組の改善を図り、より大きな事業成果を得ることによってその意義を確たるものとし、認知度の向上により参加料収入、チケット料収入の増大を目指す。

#### 人事戦略について

令和6年度には静岡音楽館 A01 の事業を担当する音楽専門員（学芸員）を増員し、併せて専任の広報担当者を配置することにより、事業の推進および広報の強化を図る。

#### ネットワークの構築について

本事業の実施にあたり協力を得ている静岡県立美術館、富士山静岡交響楽団のほか、地域の教育機関（小中学校）や静岡市文化振興財団が管理・運営する静岡市美術館、静岡市生涯学習センター（11センター）等との連携を深め、次年度以降、これまでの合格者の活躍の場を拡充することで、本事業の魅力をより高めていきたい。